

第4学年 図画工作科学習指導案

は組 男子 19名 女子 19名 計 38名

指 導 者 所 崎 陽

1 題 材 集まれ！ おしゃれにデコったアンブレラ

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材は、生活で身近に使っている傘を、自分なりの表現を考えながら、形や色などを工夫して飾り付けをしながら表したい感じの傘になるように工作に表す題材である。

この期の子どもたちは、少しずつ周囲の環境が自分の生活と密接に関連していることを意識し始めてきている。さらに、祭などの伝統や文化が自分の生活とも関わりがあることを少しずつ感じ始めている。また、表現する際には、つくりたいものへの思いを基に、アイデアスケッチなどを通して、形や色などから自分なりのイメージをもつようになってきている。そして、友達や自分自身との対話を通して、より自分の表現にこだわりをもって製作することができるようになってきている。

そこで、傘を使って、それに自分なりの表現を考えながら飾り付けをしていくことは、**自分の生活と関連を図ったり、言語活動や体験活動を充実していくことで、自分の表したいおしゃれな傘のイメージと形や色などの見るポイントを強く関係付け、つくりだす喜びを味わうことができる。**また、傘に様々な飾り付けをしながら、表したい感じになるように、形や色、材料などの組合せを試行錯誤しながら表現することでつくりだす力を伸ばしていくことができる。そして、見るポイントを基に、自分や友達の作品を見たり、友達と表現の工夫や課題について話し合ったりすることで、お互いの作品のよさに気付いたり、課題を見つけたりして感じ取る力を伸ばすことができる。さらに、生活と関連の深い傘に、飾り付けをしていくことで、日常の生活に潤いをもたらす傘としての役割について理解を深め、つくりたい傘に合わせて、はさみや化学接着剤などを適切に用い、知識・理解、技能を高めしていくことができる。

このように、見るポイントと自分なりのイメージを関係付けながらつくりたい傘になるように飾り付けをしていく本題材は、生活との関連を図りながら身の回りのもののよさに気付くことができる。そして、この題材は、4年生の題材「この絵が変身」で、自分で考えた話の展開に合わせて紙の折る回数や折り方を練り、日本の文化の一つである漫画をつくる題材へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本題材で扱う傘は、**日常生活にとっても関係があり、子どもたちにとって馴染みのあるものであるとともに、デザインしていく楽しさもある。**さらに、透明色のビニールでできているものを材料として使用し、飾り付けをする際に、光の透過性を生かし、光を材料として取り入れて表現をすることができる。また、形がドーム型で、外側からだけでなく、内側からも見るなどいろいろな角度から見る面白さも味わうことができる。このように、色や形の工夫が多彩にでき製作に試行錯誤しながら取り組める。そのため、**子どもたちは、このような傘の特徴を生かしながら、製作の過程で体験活動や言語活動を通して、学習に意欲的に取り組むことができる**と考える。

そこで、自分の表したい傘をつくるためには、まず、自分の思いを大切にしながら**アイデアスケッチをかいたり、つくりながら変化していく形や色などを基にしたりしてイメージを具体化し、**思考を練り上げる場を設定する必要がある。次に、自分や友達の傘を鑑賞する際に、**見るポイントとイメージがどのように関係付けられているかを話し合ったり、様々な角度から見て感じたことを伝え合ったりして、お互いの表現の課題を見付けられるようにする。**さらに、表したい傘にするために、材料の特徴を考えながら、用途に応じて適切にはさみや化学接着剤を用いることができるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、自分のつくりたい傘への思いを深め、形や色などをイメージを基に具体化した経験をのよさを感じながら、つくりだす喜びを味わい、表現へのこだわりをはぐくむことができると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちは、工作について(※1)、これまでの経験を通してほとんどの子どもたちが好きである(※1)。しかし、「好きではない」と答えた子どもも1名いる。その理由として、表現したい思はあるもののうまくつくることができないことがあげられている。その子どもは技能面に課題がある。そのため、机間指導をしながら個別に用具の使い方について指導し、自分の思いが作品に表すことができるようにする。

傘のテーマを考えることについては(※2)は、多くの子どもたちが、アイデアスケッチをしてテーマを考えることができた。しかし、テーマを考えられなかった子どもが4名いる。その理由として、傘にいろいろなものを飾り過ぎてしまい、つくりたいもののテーマがはっきりしないことがあげられた。そのため、**題材の導入で、つくりたい傘のテーマをはっきり決められるようにどのような飾り付けをするのかをイメージマップを作成したり、アイデアスケッチをしたり**してテーマについて十分考えられるようにする。

友達の作品を見ることと自分の作品を見せることでは(※3, 4)、好きだと答えた子どもの人数に大きく差がある。鑑賞活動の中で、不安を抱きながら鑑賞をしていることが分かる。そのため、題材の導入でイメージマップについて話し合ったり、アイデアスケッチを鑑賞したりする活動を設定し、**友達と話し合いながら構想を練り、自信をもって製作に臨めるようにする。**

化学接着剤とりのりを使い分けることについて(※4)は、理解していない子どもが6名いた。そのため、掲示資料を使って、いつでも確認をしながら製作に取り組めるようにする。

(4) 指導上の留意点

ア 意欲的に製作に取り組むことができるように、導入で飾り付けをした傘と飾り付けをしていない傘を鑑賞し、飾り付けをした傘の表現のよさを感じ取れるようにする。また、製作の途中でも意欲的に取り組めるように**鑑賞の場を設定して、自分の課題を明らかにし解決方法を見出す**ことができるようにする。

イ 見通しをもって製作に取り組むことができるように、導入で**イメージマップの作成やアイデアスケッチをする場を設定する**。そして、自分なりのイメージをもち、つくりながらさらに形や色などを工夫できるようにする。

ウ 友達の表現のよさに気付き、自分の製作に生かすことができるように、見るポイントを基に作品を鑑賞し、イメージと結び付けていけるようにする。さらに、**鑑賞活動を導入と製作途中で、友達と話し合う共通の場を設定する**。

エ **伝統・文化の視点で傘を飾り付けしていくことができるように、鹿児島市に古くからある「曾我どんの傘焼き」の紹介をする**。さらに、用具の適切な使い方について理解できるように、黒板に用具の使い方についての資料を掲示し、製作途中でも振り返りながらつくることができるようにする。

実態調査 4年は組 38名 (4月中旬実施)

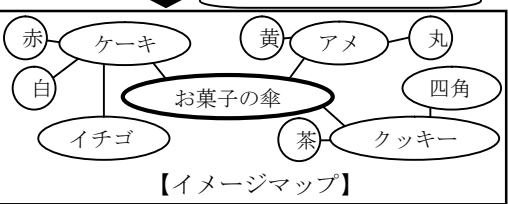
- 1 工作について ※1
好き(37名) 好きではない(1名)
(好きな理由)
 - ・ 自分なりの作品をつくらることができる
 - ・ 自分の課題を解決できる など(好きではない理由)
 - ・ 作品をつくる時に思い通りにつくれない
- 2 傘のテーマを考えることについて ※2
テーマを考えることができた(34名)
テーマを考えることができなかった(4名)
(考えたテーマについて)
 - ・ 空飛ぶ傘 ・ 魔法傘 ・ 音符傘
 - ・ お菓子傘 ・ おもちゃ傘 ・ 深海傘 など
- 3 友達の作品を見ることについて ※3
好き(37名) 好きではない(1名)
(好きな理由)
 - ・ 新たなアイデアが浮かぶ
 - ・ 友達の工夫を生かせる など(好きではない理由)
 - ・ 自分の作品をつかっていたい
- 4 自分の作品を見せることについて ※4
好き(25名) 好きではない(13名)
(好きな理由)
 - ・ 自分の課題が見つかる
 - ・ 作品の感想が聞きたい など(好きではない理由)
 - ・ うまくつくれない
 - ・ 自分の作品に自信がない
- 5 材料によって化学接着剤とりのりを使い分けることについて ※5
理解している(32名) 理解していない(6名)

3 目 標

- (1) 形や色などの見るポイントと自分なりのイメージを関係付け、自らの課題を解決し、進んで思いに合わせた傘をつくることができる。
- (2) ○ 見るポイントとイメージを関係付けがら、表したい感じになるように形や色などを工夫しながら飾り付けをして、自分なりの傘をつくることができる。
 - 表現活動の様々な場で、見るポイントを基に作品を鑑賞し、友達と話し合う中でお互いの飾り付けの工夫のよさを感じ取ることができる。
- (3) つくりたい傘になるように、はさみや化学接着剤などの用具を工夫して用い、表現することができる。

4 指導計画 (全6時間)

※ は日常生活との関連を示す。

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
動機付け	1 傘の飾り付けをする楽しさについて話し合う	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習への意欲を高めるために、飾り付けをしてない傘としてある傘を比較させ、飾り付けをするよさに気付かせる。その際、傘に飾り付けをすることが伝統文化と関連があることにも気付かせるために、曾我どんの傘焼き等の画像を提示する。 生活との関連「知覧の傘灯笼」「曾我どんの傘焼き」【伝統文化】
発想	2 題材のめあてを話し合う。 形や色を工夫して、世界に一つしかない自分のかさをつくろう。 3 イメージマップやアイデアスケッチをかく。 お菓子の傘にしたいな。ケーキやクッキーを飾りに付けよう。色はたくさん色を使ってカラフルにしたいな。【思い】 【イメージの具体化】		
表現	 【イメージマップ】		
鑑賞	4 自分なりの傘をつくる。 (1) イメージマップやアイデアスケッチを基に製作をする。 下から見たり、上から見たりしていろいろな向きから見るといいな。上から見たらお菓子の形が見えるようにして、裏から見るとお菓子がぶら下がっているようにしよう。 (2) 中間鑑賞活動をする。 (3) 中間鑑賞活動を生かして製作する。	4 本時 第2時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しをもち、意欲的に製作ができるように、イメージマップやアイデアスケッチについて鑑賞する場を設定し、友達の見解を参考にしながら、構想を練ることができるようにする。 ○ 自分の傘の形や色などについて考えを深め、製作の方向性をもてるようにするために、イメージマップやアイデアスケッチをかくようにする。 ○ 透明色の特性に気付かせ、作品に生かせるようにするために、光の透過性を生かした材料が選べるようにする。 ○ つくりながら様々な発想が広がるように、友達と自由に話をして活動が展開できるようにする。 ○ 表現の課題を意識して製作できるように、自分の課題で解決できたところとできていないところについて話し合うようにする。 ○ こだわって製作できるように、中間鑑賞活動で感じたり、考えたりしたことを基に製作できるようにする。 ○ 友達の表現のよさを感じ取れるようにこれまでに気付いてきた見るポイントを基に鑑賞し、それぞれの思いが表れているところを認め合うようにする。
評価	5 つくった傘を鑑賞する。 友達の傘も形や色が工夫されているな。生活の中にもこの傘を生かしてみたいな。	1	

5 本 時 (4 / 6)

(1) 目 標


- ア 中間鑑賞活動で、自分や友だちのよさに気づき、自分なりの課題をもって進んで傘に飾り付けすることができる。
- イ 中間鑑賞活動で、見つけた自分なりの課題を基に、形や色などを工夫し試行錯誤しながらつくりたい傘をつくることができる。
- ウ 中間鑑賞活動や製作の途中で、友だちと話し合いながら友だちや自分の作品のよさに気づき、自分の作品に生かすことができる。
- エ 化学接着剤やのりを材料によって使い分けたり、つくりたいものに応じてはさみを適切に用いたりすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

製作の途中で、新たな自分の課題を見出しさらに工夫しようとする意欲を高めさせるために、導入段階で、中間鑑賞活動の場を設定する。さらに、鑑賞をする際は、表現へのこだわりをはぐくめるように**見るポイントや自分なりのイメージについてお互いに話す**ことができるようにする。そして、**話し合ったことを基に自分の課題をもって、今後の製作に取り組めるようにする**。

展開の場では、自分の課題を解決できるように、机間指導をしながら、それぞれの課題をどのように解決していくか、助言していくようにする。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
動機付け 発想	1 学習計画を基に、本時のめあてについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">友だちと話し合ったことを生かして、さらに飾り付けを工夫しよう。</div>	(分) ↑ 20	○ 鑑賞活動のよさを実感できるように、今までの鑑賞活動の経験を振り返らせながら、これから自分の表現に生かしていけるようにする。 ○ 自分なりの課題を見付けることができるように、 見るポイントとイメージの関係について友達と話を することができるようにする。 ○ 中間鑑賞活動を通して、見つけた課題を 自覚化 できるように、 言葉でまとめ 、発表する場を設定する。
	2 中間鑑賞活動をする。 ・ 見るポイントとイメージを関係付けて話し合いをする。		
表 現	3 中間鑑賞活動を通して、見つけた課題をまとめ、発表する。  友達からいろいろな色のお菓子をつけたらもっと、楽しい感じがするといわれました。やってみたいと思います	↓ 20	○ 化学接着剤等の用具を適切に使うことができるように、掲示資料を活用しながら使い方について確認する。 ○ 自分の課題をよりよく解決できるようにするために、机間指導をしながら、発想面や技能面について助言する。 個 製作する意欲が高まらない子どもには、 友達と話す場を新たに設定 し、工夫するところがないかアドバイスをもらえるようにする。
	4 見つけた課題について考えながら傘に飾り付けをする。  友達から教えてもらったことを生かして、カラーセロハンを使っておしゃれにしよう。		
鑑 賞 評価	5 自分の課題解決に向けて、取り組んだことを発表する。  カラーセロハンで飾り付けをして、色がカラフルになり、おしゃれな感じになりました。	↓ 5	○ 新たに作りだすよさを実感できるようにするために、自分の課題解決に向けて取り組んでいることを称賛する。 ○ 製作の意欲を高めるために、中間鑑賞活動で見つけた課題を基に、どのようにして解決しているかを発表する場を設定する。